

授業科目名・形態	地域・在宅看護実習 II 実習	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	石川セツ子・他	実務経験の有無	有	開講期	3年前期・後期

【授業の主題】

地域で暮らす人々の「生活」を理解し、生活の中での支援の必要性を学ぶ。
地域包括ケアシステムにおける看護の役割を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 地域で暮らす人々の「生活」を理解し、生活の中での支援の必要性が理解できる。
- 2) 地域で生活する人々の健康問題を支える活動が理解できる。
- 3) 保健・医療・福祉に関わる一員として必要な基本姿勢、態度が理解できる。
- 4) 多職種と連携・協働する中で、継続的に支援する必要性が理解できる。
- 5) 対象の尊厳、価値観を尊重した看護を考えることができる。

【授業計画・内容】

- 1) 地域で暮らす人々の生活環境、健康問題、地域包括ケアシステムが理解できる。
- 2) 地域包括支援センターの機能と業務、利用者、目的、包括的支援事業。
体的な健康保持増進する活動、地域包括支援センターで開催される会議・活動。
- 3) 保健・医療・福祉のチームの一員としてのコミュニケーション、基本姿勢・態度
- 4) 社会資源の種類とその活用、関係機関との連携・協働。
- 5) 住み慣れた地域で生活するために必要な支援体制と看護の専門性。

※詳細は実習オリエンテーションにて提示する。

【授業実施方法】：①臨地実習 ②事前学習（課題学習のまとめ）③実習直前オリエンテーション（実習目標の確認等）
④施設内反省会（実習2週間の振り返り・反省）

【授業準備】：在宅ケアに関連するサービス、関係法規などの①事前学習ノート②初日分の実習目標
を記載した記録を、実習開始前の指定日時までに教員へ提出し内容を確認する。

【主な関連する科目】：地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】 2024年度版 地域・在宅看護論①② 「地域療養を支えるケア」「地域療養を支える技術」
編者：臺 有桂 石田千絵 山下留理子 発行所：メディカ出版

【参考文献】 令和6年版訪問看護業務の手引き等、その他必要に応じ授業で紹介する。

【成績評価方法】：1) 実習中における実習指導者や教員による評価（実習中の姿勢や態度・行動等）や、日々の記録
のコメント、反省会・カンファレンス等での発言・発表（50%。）
2) 地域・在宅看護実習（Ⅱ）評価表（50%。）

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

- 1) 訪問看護の運営業務や、在宅ケアマネジメントの実務経験を活かし実習中の指導に当たる。
- 2) 実習での理解不足や疑問等について、理解が得られるよう振り返り学習をとおして、活発な意見交換ができるカンファレンスを定期的実施する。

【学生へのメッセージ】

- 1) 在宅・施設サービスの実習となりますので、特に同行訪問による実習時には、個々の基本的なマナーをしっかり守りましょう。（事前オリエンテーション時に配布した資料を参考）
- 2) 地域・在宅看護実習の自己学習課題について、しっかり事前の学習をしてから各施設で実習しましょう。
- 3) 実習での学びをとおして、疑問や分からないこと等は、積極的に指導者や教員へ質問し理解を深めましょう。
- 4) 限られた実習期間ですので、主体性を持ち、やりがいと達成感のある実習を体験しましょう。